

令和元年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

27

福岡県立折尾高等学校長 印

No. 1

学校運営計画(4月)			評価(3月)		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
「新たな学びプロジェクト」研究指定校としての4年間の取組により、AL型授業の意義や手法について職員の共通理解が深まり、AL型授業の実践も定着しつつある。本年度は観点別評価のさらなる充実を図るとともに、「専門高校」ならではの「実学」を大切にされた教育活動を推進する。また、地域社会に貢献できる人材育成を目指した産学連携等地域資源を活用した特色ある取組を推進する。	折尾高校生としての責任の自覚と誇りの涵養	毎朝の挨拶練習と教育活動全体における「鍛ほめ福岡メソッド」の実践	A		
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善(授業改善)と観点別評価の充実	「新たな学びプロジェクト」の研究成果を基に観点別評価の充実に努め、「どのように学ぶか」という学びの質の向上に向けた授業改善			
	個に応じた指導体制の整備	人権教育推進委員会の月2回開催と関係諸機関との連携			
	希望進路実現に向けたキャリア教育の推進	外部人材の活用(年20回)、インターンシップ(年3回)等による学校での学びと社会との接続を意識した支援体制の確立			
	中学校をはじめとした地域への情報発信	ホームページの定期的(週1回)更新等による専門高校及び学科の特色の情報発信			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	基礎・基本の徹底	各教育活動をPDCAサイクルの中でとらえて、きめの細かい学習指導の充実を図ることで学習内容の確実な定着を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価方法の更なる改善 来年度初めには新教育課程を提案 パイロット校として校務支援システムを円滑に運営するための人材育成 ブランドイメージ発信のためのキャッチフレーズを入れ学校案内作成 総探の時間を課題研究で代替するための試行・検討
	観点別評価による「学び」の深化	観点別評価を用いて学習状況を検証し、「何ができるようになるか」の視点から「学び」の深化を図る。	B		
	次期教育課程の検討	新学習指導要領を踏まえた教育課程を検討する。	B		
	教務分野業務の人材育成	専門性の高い業務について、複数人を配置し次世代の人材育成に取り組む。	A		
	広報活動の充実	折尾高校としてのブランドイメージの発信を意識した学校案内を作成する。	A	A	
		ホームページの定期的な更新(最低週1回)を実施し、リアルタイムな情報を提供する。	A		
8月の中学生体験入学とは別に12月に学校説明会を実施する。		A			
生徒育成部	校則遵守の徹底と基本的生活態度の育成	全職員が、統一した指導観のもと生徒指導にあたり、問題行動等の未然防止に努める。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 校則遵守の徹底と基本的生活態度の育成 本校の一員であるという自覚と誇りの醸成 外部関係機関との連携強化
	自主・自律の精神の育成と、心豊かな人間形成を推進し、生徒会活動や部活動の活性化を図る	生徒会活動や各種委員会活動、学校行事における個々の役割を明確にし、責任を持って行動させる。リーダーシップをとる生徒を育成し、リーダーを中心に行動する生徒集団の醸成を推進する。	A		
	多面的な生徒理解と家庭及び関係諸機関との連携を強化し、特別支援教育の推進を図る	平素から、SCやSSW、保護者及び学校医や子ども総合センター等の外部専門機関との連携を強化する。教育上特別の支援を必要とする生徒を把握し校内の支援体制を整える。	A		
	いじめを生まない教育活動の推進	学年や人権教育推進委員会と連携し、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを生まない教育活動の推進に努める。	A		
	健康診断の充実	健康状態を把握し適切な指導と事前の健康調査を実施する。	A	A	
	保健委員会の活性化	保健だよりを通じ、生徒・保護者に向けて、健康に関する情報発信と保健啓発活動を行う。	A		
	個に応じた指導体制(気になる生徒)の取組	SCによる生徒・保護者・職員に対しての健康相談。特別支援コーディネータとの連携による共通理解を深める。	A		
	環境美化の推進	新校舎設置に伴い、美化点検や美化コンクール実施する。	A		
	人権教育の視点に立った学校づくりの推進	人権教育推進委員会での協議事項の検討、教職員や保護者への情報発信、生徒や保護者の生活背景に基づく取組を行う。	A	A	
	教員の人権に関する知識や意欲・態度、実践力の育成	校内研修の改善・充実を図り、校外研修への全員参加体制の構築し、成果を共有する。	A		
	共に生きる心や公共の精神に基づいた人権意識の高い生徒の育成	特設授業の充実と全教科・全領域での人権尊重の視点に立った教育活動の実践、いじめを生まない校内体制づくりを推進する。	B		
	特別支援教育の推進	教育上特別の支援を必要とする生徒の把握と校内支援体制を整備し、全職員の共通理解を深める。	A		

令和元年度 学校自己評価表（計画段階・実施段階）

27

福岡県立折尾高等学校長 印

No. 2

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
進路指導部	望ましい勤労観・職業観の育成	広い視野と行動力をもたせる指導の展開と進路行事・サマープロジェクトの充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学びの軌跡を残す取組 早期の希望進路先絞り込み 分掌内の役割分担の検討 	
	希望進路実現に向けた、個性・能力・適性の伸長	進路ホームルームの充実を図り進路情報の提供を行う。	A		
	教養を備えるための学習環境の整備	基礎学力定着に向けた指導の充実を図る。	A		
	3年間を見据えた体系的な進路指導の実践	本校の「3年間を見据えた体系的な進路指導」を実践する。	B		
研 修 部	時代に即した研修の実施	職員の指導力向上に向け、時代に対応した研修会を企画する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 時代のニーズに対応した研修の推進 各分掌等と連携した校内研修会の充実 不祥事防止等に関する教職員の意識の向上 H Pの月別行事予定の更新 学校行事における駐車場の確保と生徒保護者への連絡徹底 関係機関との日程調整
	不祥事防止に向けた研修の推進	不祥事防止に向けた研修会を実施することで規範意識の高揚を図る。	B		
	授業改善・学習評価に関する研修の実施	学びの深化に対応すべく、校内研修及び教科内研修を推進する。	A		
	公開授業の実施	教科指導力の向上を目指し、公開授業週間を年2回実施する。	B		
	各行事の目的を達成するための計画提案	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省を活かし本年度実施される行事の計画提案を行う。 分掌内の役割を明確にする。 分掌、学年、学科や部活動との緊密な連携を図る。 名札の作成を行い、行事で活用する。 	A	A	
	年間・月別行事の連絡徹底	1か月前には職員に連絡し、H Pに月別行事予定を掲載する。	A		
	職員の意見・反省集約	本年度実施される行事が次年度に活かされるように職員の意見・反省を集約し、改善策の提案を行う。	A		
H Pの更新	H Pでの行事関連の項目を更新する。	B			
第1学年	将来を見据えた進路実現の基盤作り	積極的な進路情報の発信、資格取得の推進、進路行事への主体的参加の促進を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> クラスや分掌を横断した情報共有 礼法指導の徹底 生徒1人1人の成長につながる振り返りの実施
	基本的生活習慣の確立	礼法指導の徹底、スケジュール管理の徹底、担任面談や生徒情報の確実な共有を図り、個に応じた指導体制を構築する。	B		
	基礎学力の定着	家庭学習の習慣化、実力考査や考査毎の目標設定や振り返りのシステム化を進め、考査前勉強会を実施する。	B		
	主体性を発揮した学校生活の実現	生徒主導の学年終礼の運営実施、行事毎の適切な振り返り、部活動への加入促進を行う。	B		
第2学年	学力の向上	学習環境や考査等への事前指導を充実する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ネットリテラシーの育成 取組実施へ丁寧な趣旨・目的の説明 進路に対する高い目標設定と実現に向けた雰囲気作り
	ビジネススキルの向上	ビジネスアイテムを活用する。	B		
	進路意識の向上	希望進路別の進路指導を実施する。	A		
	主体的な学校生活の実現	行事や取組を生徒主導で運営する。	A		
第3学年	希望進路の実現	面談等による適性把握を行い、キャリアを見据えた「型」とコミュニケーションスキルを育成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 最上級生としての規範意識の向上 多様な背景・環境をもつ生徒一人ひとりへの適切な指導 教職員間の情報共有
	基礎学力の向上	実力テストの活用（振り返り）、進路対策講座の充実、丁寧な個別指導（小論文等）を行う。	B		
	基本的生活習慣の定着	校則遵守の徹底、手帳の活用によるスケジュール管理	B		
	豊かな人間性の涵養 リーダーシップ、コミュニケーション力	生徒主導による学年行事の運営により、行事を通したリーダーシップの育成を図る。	A		
商 業 科	確かな学力の向上	基礎・基本の徹底、アクティブ・ラーニングの推進、ICT機器の活用を推進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の実施に向けた体制作り 地域資源の活用の推進 広報活動の更なる充実
	専門的職業人の育成	資格取得の推進、ひいらぎ祭における活動の充実、次期学習指導要領に向けた教育課程の検討を行う。	B		
	地域資源の活用	企業や地域との連携を推進し、地域での教育活動を積極的に展開する。	A		
	広報活動の推進	H Pの更新内容の充実、中学校への広報活動の充実を図る。	B		
家 庭 科	学科の特色を活かした取組の実施	産学連携授業を継続し、3類型の連携を深める。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 総探の時間を課題研究で代替するための試行・検討 広報活動の推進と充実 さまざまな取組のスリム化
	専門的な学習指導の充実	各種資格取得を奨励する。	A		
	地域との交流	社会人講師招聘事業や未来を切り拓く人材育成事業の充実を図る。	A		
	広報活動の推進	的確で迅速な情報の発信を行う。	B		